

ホーム名：グループホームしおかぜ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を額に入れグループホーム内の見やすいところに掲げている。またスタッフ会議時には理念の実践に向けての取り組みを討議し、家族にも理念についての説明を行っている。	2階玄関入ってすぐ目に付く場所に理念を掲示している。入居者の意志を尊重し楽しく暮らす為にどんな支援が必要なのかを職員で考えた理念である。	理念にもあるように「入居者、職員、家族と一緒に協働し楽しみながら日々の生活を過ごせるよう」今後もお互いに意見を交わしながら温かい支援を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には出来る限り参加し、毎日近くの商店街へ買物に行き、地域の人達とのふれあいを大事にしている。	港区の福祉ふれあい祭り、生協の健康祭り等に出来るだけ参加している。入居者のほとんどが車椅子による外出になり、順番に商店街の買い物に同行し人との触れ合いやお菓子選びを楽しんでいる。加入している町会からの情報も把握できている。	入居者の高齢化と病状の進行で年々行事への参加が困難になるのは悲しいことではあるが、職員は其中で出来るだけ自由に過ごしてもらえよう努力している。温かい見守りを感じた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症を理解をしていただく為、認知症学習会を開催したいと考えているが、現在は取り組めていないのが実状である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域から来られる委員の方々に利用者様の現状報告や取り組みを伝えている。その他、地域包括の方には、様々な質問等に答えて頂いている。また、参加できなかった方々には郵送にて会議録を送付している。	運営推進会議は2ヶ月に一度行い、それ以外に年4回家族会を催すようにし、家族からのいろいろな意見、質問を聴く機会がある。	地域の民生委員や連合町会長代理の方にも出席依頼し、より地域に密着したホームを目指してもらいたい。家族会があり活発に意見が言いやすい雰囲気はとも評価できる。あとは開催日、時間にひと工夫されてより多くの参加を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に一度、ご家族様、地域包括、地域の会長様、職員が集まって話し合いの機会を持ち、皆様の意見を出来る限り反映できるように努めている。	大阪市グループホームネットワークや運営推進会議の場で情報収集をしたりこちらの情報伝達をしている。本年度から包括支援センターが事務局になり港区内のグループホーム、小規模多機能、デイサービス施設合同で研修等を行っている。	地域の福祉の現場の状況を知ってもらうためにも区の高齢福祉課の運営推進会議への参加を今後更に依頼してもらいたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	常に気持ちの落ち着きを促す声かけを心掛け、専門的知識をもって、予測と観察を行い、事故発生の予防を念頭におき拘束することなく過ごしていただいている。	入口の施錠も、居室の窓の開閉にも制限がない。少人数のホームということもあるが、職員は見守りを大切に、出来るだけ制限せずに入居者の思いに寄り添う介護を実践している。	介護する側の都合ではなく入居者の気持ちや自尊心に合わせたケアを目指して日々取り組んでいる。症状の重度化に伴いケアの内容は変わっていくが、職員全員が今までの知識を活かして理念を大切に持ち続けてもらいたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加により各職員が虐待についての認識を深めることで、虐待防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>昨年まで、グループホームしおかぜでも成年後見人制度を利用している入居者が生活していた。職員としても権利擁護の意識を念頭において日々のケアに生かせるように取り組んでいけるように研修への参加を呼びかけている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>速やかに必要な書類を用意し、丁寧に説明を行っている。また、御理解いただけるまで話し合いを重ねている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会が出た意見や、施設内に設置している意見箱にある意見書を毎月一回、事業所向上委員会にて討議し問題点に対して迅速に対応できるように努めている。</p>	<p>意見箱は設置しているが、投函されたことはない。年に数回ある家族会や普通の面会時に家族からたくさん生の声を聞くことができている。意見、要望については月初のスタッフ会議に出して検討し合っている。</p>	<p>家族の訪問が多く、家族会を通して意見も言いやすく、できる限り要望を受け入れている。温かく家庭的な場所で、出来るだけ残存能力を維持してもらいたいというのは誰もの願いでありその願いに応えられるよう日々努力している。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月のスタッフ会議・法人職員会議・年2回の職員総会を開催している。また、その都度、職員同士で意見交換を行い反映を心掛けている。</p>	<p>職員は管理者に対して苦言も含めて意見が言いやすく意志の疎通が出来ている。管理者は職員の労働環境にも目を配るようにしている。</p>	<p>入居者が居心地の良い家庭的な生活を送るためには職員同士が和やかな関係であることが大切なので今後も職員、管理者、法人代表者の関係がスムーズに築かれるように全員で取り組まれることを期待する</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人代表者と職員代表者との話し合いの場を設けている。そして、議論を重ね必要な事項は改善され調整が行われている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>先輩職員の直接指導及び、法人内での研修や地域密着型事業者ネットワークなど外部研修に参加することで、職員の育成に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪市GHネットワークへの参加、港区内のGHとの連携を行い、現場職員を交えた交流学習会を実施している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>職員は、様々な不安な気持ちを色々な角度から感じ取り、それらを一つ一つ解決していき、安心安全な信頼関係を構築しているように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>小さな事から大きな事まで回数を重ね話し合いを行っている。また些細な事でも電話連絡等も含め、報告し合える事で信頼関係も育まれ、安心を提供できるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当法人内にある他事業所とも連携し、本人・家族を交えて納得するまで話し合いをしている。また、医療等、専門的分野に関しては、速やかに相談を行い迅速な対応を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>暮らしを共にする事で信頼関係を重点視しているが、馴れ合いになることで、発見や、気付きを見落とさないように、緊張感には常に念頭におくように心掛けている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には自由に訪問していただいている。常日頃から積極的にコミュニケーションを取り、日常の報告や出来事について、話し合っている。また、共に過ごせる場の企画も提案し実施している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>お天気の良い日は、近所の商店街に買い物に出掛け、馴染みのある方々や馴染みの店での買い物などの機会を無くさないように努めている。</p>	<p>近所にある商店街で買い物をしている時に店の人との触れ合いがある。入居者の兄弟や知人が訪問することもたまにある。1階のデイサービスでボランティアの演奏などがある時には一緒に楽しんでいる。</p>	<p>高齢の入居者が多いが外出支援に力を入れている。デイサービスとの交流もあるのでその機会を更に活かして人との関わりの場を増やせるよう工夫されたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>自然に輪が出来るような環境づくりを心掛けている。また家具の配置、食事のテーブルの席など、会話出来るように配慮し、孤立しないような空間作りをしている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了したご家族にも定期的にご連絡を差し上げたり、GHにも気軽に立ち寄っていただいている。また、サービス終了後も家族同士の交流や相談も引き続き行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>希望・意向については密着してお聞きできるように、また普段の何気ない会話や表情などでも思いを拾えるように努めている。</p>	<p>家族、スタッフが協力して些細なことでも入居者の情報を共有して好みや、やりたい事など、昔からしていることをできるだけとぎれないように支援している。</p>	<p>一人ひとりの表情がとてもリラックスしていて、家庭にいるような安心感を見てとれる。今職員が把握している入居者の好きなこと、その人の歴史を文章で綴り、全員で共有していくことも提案したい。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>本人・家族から日々情報を得られたことを日誌に記録し職員全員で情報を共有している。また、スタッフ会議にて意思統一に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりが自由に安心して過ごすことができるように、毎日の状態を把握している。スタッフ間の申し送りは、ノートに記載と口頭で行っている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・職員・その他関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを出し合い、より良い介護計画が作成できるように努めています。</p>	<p>職員の意見を参考に、ケアマネージャー、常勤職員でまとめて介護計画を作成する。2、3ヶ月に一度見直している。日誌、連絡事項はきっちりノートにまとめられ引き継がれている。</p>	<p>家族、医師の意見を取り入れながら、より良い介護計画を職員全員で検討し介護に活かしている。これからも気づきを反映させやすい関係を維持してほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>全職員が各記録類の記入を行っている。申し送りノートでも詳細な情報の共有が行えるようにしており、また勤務交代時には引継ぎを必ず行なうようにしている。目の付く場所にホワイトボードを設置し、必要時は活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>同施設内のデイサービスに参加したり、他の事業所とも連携や相談を行い、柔軟な支援が行える環境づくりをしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアさんによる外出時の援助や、消防署による防災避難訓練など協力を仰ぎながら支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当法人の医師が2週間に一度定期的に往診を行っており、かかりつけ医として適切な医療提供を行っている。</p>	<p>法人内科医師による健康管理と看護師の支援があり、治療行為も行われている。法人内には物忘れ外来もあり、認知症に対する治療、相談体制があり受診する入居者もいる。</p>	<p>医療との連携により事業所内の環境が入居者・家族にとって安心したものになっている。馴染みの関係が、最期を事業所で迎えたいという気持ちに繋がっていると考えられる。</p>

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約を行っており、毎週一回健康チェックを依頼している。必要時は専門医への受診の勧めもある。職員の相談や質問にも答えている。その甲斐もあり入居者の健康状態をしっかり把握している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は病院関係者と家族と連絡を取り、状況の把握、必要事項においての情報交換を行っている。また、当法人の診療所とも連携をとりあい早期退院に向けた協働を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族とは、入居の際から終末期の対応など家族に説明をし相談をしている。緊急時の対応についても定期的に家族に確認している。また、かかりつけ医、訪問看護とも密に連携をとりあっており情報方針の共有に努めている。</p>	<p>これまで5例の看取りを経験している。家族の希望は把握でき、事業所としても最期までの関わりを考えている。</p>	<p>入居者の平均年齢が90歳代の事業所として避けて通れない課題となっている。職員の異動等に伴い受け入れに対する研修・学習等で、さらにきめ細かいケア体制が確立されることに期待する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>スタッフ会議の際に事故発生時の対応について確認している。また、入院されている方が戻られる際にはカンファレンスをひらいている。緊急連絡先やスタッフ連絡網の掲示も行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>スタッフ会議の際に事故発生時の対応について確認したり、緊急連絡先やスタッフ連絡網の掲示をしている。また、ご近所には地域理事がいるので、緊急時の応援をお願いしている。また年に2回防災訓練の際に通報訓練も実施している。</p>	<p>避難経路、方法が確認されている。入居者を背負って非常階段を下りる実際の訓練が行われた。津波の場合も近隣の市営住宅に避難を指定されている。スプリンクラーの設置は移転計画中であるため計画はない。夜間の訓練は検討中である。</p>	<p>背負い紐の購入記録があり職員の努力が伺える。今後、災害に備え食糧、防寒用品等早期に準備されたい。地域が高齢化状態の中で「災害時の地域に対する応援も必要になるのではないか」と管理者が話された。今後、地域の一員としての役割に期待したい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は、入居者の方々は人生の大先輩であることを常に念頭において言葉使いや声かけの方法を配慮している。そして温かみのある安心できるような対応ができるように心がけている。</p>	<p>一人ひとりの入居者の個性を大切にしたり関わりを家族も含めて統一するようにしている。落ち着いた声かけを心掛け、名前での声かけをしている。</p>	<p>家族と共に対処を統一することは職員間のコミュニケーションが円滑でなければ難しい。生活での変化を連絡ノートで共有しながら、繋いでいる。話しやすい人間関係が入居者を落ち着ける環境にしていると感じた。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の方々が、希望されることを積極的に応援し出来る限り自己決定を尊重しています。自己決定が難しくなってからも、本人の意思を読み取り、意思に沿えるような取組を行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホーム一日の流れはあるが、あくまで目安である。出来る限り一人ひとりのペースやその時の体調に合わせて過ごしていただくように努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>買物では、ご自身の趣味のものを選んで購入していただいている。散髪も本人の行きつけの理美容にご家族様の協力を受けながら行っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事のメニューから何が食べたいかをお聞きし、一緒に買い物へ行き、調理・盛り付け・配膳を一緒に行っている。調理中も会話しながら、出来る事にそれぞれ参加し楽しめている。</p>	<p>職員の声掛けに思い出したように箸が動く、じっと待つ、見守るといった支援が出来ている。職員が交代で3食調理、提供している。入居者が調理に参加する機会は少なくなっている。昼食は職員と同席で取るようにしている。</p>	<p>入居者の状態を見ながら献立を決めている。高齢化に伴い行動量が減退する終末期に前にも自分の力で食事ができる支援にさらに期待する。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>個人の体調に合わせて、刻みやミキサー食など、様々な食事形態を調整している。脱水症状を予防するため、水分摂取も徹底して実施しています。申し送りにより、その事柄を他スタッフへ伝達をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の度に嗽の促し、就寝時は必ず義歯の洗浄及び嗽を実施している。必要時の方は訪問歯科の定期的な利用をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>毎日記入している排泄状況チェック表を参照し、各入居者の排泄パターンを把握しながら早期の促しを行ってトイレ誘導を行っている。また、着衣や、誘導時の歩行など、出来る事の継続の支援を行っている。</p>	<p>昼間も夜間もトイレ誘導を基本にしている。できることには手を出さずに見守る。膀胱内留置カテーテル使用入居者に対する不安除去の工夫もされている。</p>	<p>カテーテルによる持続排尿の方であっても、尿意時トイレまで誘導支援している場面に遭遇した。異物感、違和感軽減の工夫もしていた。今後も、入居者の安心できる排泄支援に期待する。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個人別の排泄状況チェック表にて、排泄の状況を確認し、野菜や水分の摂取を心掛けている。また、往診時の医師や訪問看護にも相談しながら便秘の解消に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的に入浴日・入浴時間などは自由であり、いつでも入りたい時に入れるようにしている。(夜間のスタッフが少ない時以外)入浴が嫌いな方や拒否される方については、その原因や背景について把握するよう努め時間や言葉かけに工夫している</p>	<p>個浴対応で隔日入浴を基本に支援。希望があればその都度入浴。これまで浴室でのトラブルはない。</p>	<p>気持ちの良い入浴は「極楽・極楽」と喜ばれるもの、入居者が自分の意志で入浴し、共に喜ぶことができる支援が継続できることを望む。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングソファや食堂、居室など思い思いの場所で出来る限り本人の意思にあわせて休息をしていただいている。寝具も洗濯したり天日干ししたりと清潔にしている。季節に合ったものへの交換にも配慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人別お薬リストをファイルに保管し、各スタッフがいつでも確認・理解できるようにしている。服薬の方法についても個別に対応している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・買い物・調理・花など興味を示されることはそれぞれであるため、その人の嗜好・意欲に合わせて支援を行っている。また、家族様からの情報を得て、個人の嗜好品を取り入れている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	食事時の買物や、個人の必要物品の買物・散歩・洗濯干しなど、様々な場面で外出の機会と捉えて支援を行っている。また、行事や四季に合わせた外出も家族の参加や支援も含め取り入れている。	認知症の深まりの中で入居者からの希望は少なくなっている。個別対応による、1週間1回程度の買い物への同行、家族同伴のもとでの花見、法人の健康祭り、地域行事への参加、近くの喫茶店に出かけることもある。	入居者の状態に合わせ、具体的な声かけできっかけをつくり外出に繋いでいる。車椅子での外出も途切れない社会との繋がりと生活に変化をもたらすことになる。ボランティアによる支援も含め地域の中で高齢者同士が生活交流できるきっかけづくりに寄与してほしい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事業所での預かりであるが、本人の買いたい物、買う物の際は支払い・受け取りなど状況に合わせて行っていただけるように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙は現在利用されている方はいない。家族からのハガキや年賀状は見て喜ばれている。電話に関しては使いやすい場所に設置して要望があれば電話していただいたり、かかってきた際にはお話しできるように支援している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	模様替え、家具の配置変更により、ゆっくりテレビを見られたり、みんなで談笑できる空間作りができた。トイレは常に清潔を保つように、定期的な掃除に加え、こまめにチェックし汚れていたらその都度掃除を行っている。	うなぎの寝床のような居間、大きなソファで横になる人、食卓テーブルで過ごす人、会話は、ほとんど聞かれず静かな流れである。目の前で昼食調理を待ち楽しみにしている雰囲気があった。	お客さんではない、家族が暮らしている雰囲気がある。居室との行き交いも自然な流れであり、洗面台、トイレの配置も入居者にとって馴染んでいる感がある。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングソファで過ごせたり、お好きな所で思い思いの居場所で自由にいただけるようにしている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者の居室には、全てご自身の私物を持ってきていただいている。必要に応じて、家具の安全な配置や選定を本人、家族と相談し行っている。	居室の表札は漢字で統一されている。それぞれの居室には馴染みのある生活用品、入居者の生活習慣の継続として、畳使用者もいる。居室の清掃、シーツ交換、洗濯は職員が担当、布団干しの予定もチェック表に記入されている。	入居者が間違えて他室に入ることではないという。6人の共同生活は入居者がこれまでの人生での経験範囲なのかもしれない。ゆっくりした穏やかな過ごし方は、高齢者にとって大切な空間になっているともいえる。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時は、手すり・いすなどを利用しながらなるべく一人で歩ける環境作りをしている。出来ること・出来ないことの把握を各スタッフが認識し、本人の出来る事まで手を出してしまわないように見守りを行い、必要時、支援する。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない